

2 県民意識とニーズ

(1) 徳島の将来に対する主な意見

- 少子化対策として、「結婚～出産～子育て」というライフプランの教育が必要。
- 夫婦が理想の数の子どもを持つためには、若年層の雇用環境の改善や、家庭で子育てしながら働くことができる多様な選択肢の提供が不可欠。
- 人口減少や超高齢化を見据えたコンパクトかつ計画的なまちづくりが重要。
- 地域防災力の向上には、個人の常日頃からの備えはもちろん、地域での信頼関係を築き、お互いの生活情報を増やし、相互扶助の地域づくりにつなげていくべき。
- 大規模災害への備えとして、県民への正確な情報の提供と防災教育の充実、耐震化への支援、備蓄品の改良・増量など、多面的な取組が必要。
- 洋上風力発電や潮流発電など、地産地消の再生可能エネルギーの導入を推進するとともに、ICTを活用し、世界最先端のスマートシティを実現する。
- 様々な課題解決の有効な手段として、また、産業の活性化のため、ロボット開発やICTなどの科学技術の進展は不可欠。また、4Kや8Kの普及促進、高速ブロードバンド網のあらゆる場面での活用など、徳島ならではの技術を進化させるべき。
- 人口減少や科学技術、防災など様々な面で、四国新幹線の実現がもたらす多大な効果に期待する。
- 高校生や大学生が気軽に海外留学できる環境づくりと併せて、外国人と学生が身近に異文化交流できる機会を増やし、グローバル社会で活躍する人材を育成すべき。

(2) 若者の視点

徳島県総合計画審議会「若者クリエイティブ部会」における議論

※10年後(2025年)を見据えた「いけるよ！徳島・行動計画」の基本目標に関する主な提言

【基本目標1 にぎわい・感動とくしま】

- 宿泊者数増が見込める「徳島LEDアートフェスティバル」拡大版の実施など、10年後に阿波おどり以上に有名になるイベントをつくる
- 「アスティとくしま」を活用した水辺環境創出と観光誘客拡大を図り、魅力溢れる「水上バス」を使ったアクセスで徳島の魅力を打ち出す
- 「8の字ネットワーク」を活用した広域的な観光戦略、世界遺産登録に向けた四国遍路の海外へのアピールなど、四国4県それぞれの強みを活かし補完し合うといった、県の垣根を越えた観光戦略に取り組み、その中で“徳島らしさ”を出すことが必要

【基本目標2 経済・新成長とくしま】

- 農林水産業の6次産業化の動きを加速させるとともに、観光業・サービス業とのマッチングにより体験型とすることで、雇用のきっかけを増やすことができ、技術の承継も可能とすることが見込める
- 「徳島ものづくりラボ」をつくる。既存施設に、藍染め、木工、陶芸、3Dプリンターなどを体験できる場である「ラボ」を整備し、ネットワーク化して体験型観光施設としても活用。インバウンド誘致のほか、地元住民の活用による新商品開発や異業種のコラボなども見込める
- 日本初「デジタルアート美術館」をつくる。「チームラボ」を筆頭としたデジタルアートを展示。「デジタルコンテンツの最先端に触れるなら徳島」といったイメージ戦略や、日本発祥の地として、デジタルアートを文化にしてい

【基本目標3 安全安心・実感とくしま】

- 防災を正しく学び、知識を得、行動できる次世代の教育は非常に大事であることから、県立高等学校への「環境防災科」の設置など、四国初となる「環境防災」を学べる教育機関を設置
- 河川の津波対策として、防波堤整備、水門開閉の自動化のほか、高松市から県南までの高速道路4車線化の実現など、“命を守る”視点から、ハード面の整備を行う「県土強靱化計画」が必要
- 県民1人一つずつ作成したカルテを、クラウドを通じて全病院で共有する「全県下病院内カルテ共有化計画」により、発災時におけるカルテの共有はもとより、事務効率の向上も期待できる

【基本目標4 環境首都・先進とくしま】

- 「行動計画編」の数値目標として、例えば、「再生可能エネルギーの占める割合の増加」、「天然の二ホンウナギやアユの生息数増加」といった、よりインパクトのあるものを掲げてはどうか
- 環境分野の数値目標についても全国順位を導入してはどうか。個別の数値では、それが良好か否か判別が困難なことも
- 環境分野は、不法投棄や土壌・水質汚染などの問題がつきまとう分野であり、これら「負の側面」について実態を明らかにするとともに、解消・改善させることも十分目標になり得る

【基本目標5 みんなが主役・元気とくしま】

- 小・中・高等学校の一元的なファミリー教育により、結婚、出産、子育てまで想像可能に。多様な家族の在り方、働き方、子育て環境が整っていること、高齢出産に伴うリスクに関する正しい知識を理解することにより、早期の結婚や出生率の向上が見込める
- 「とくしま型ワークライフバランスモデル」の確立により、育児休業、休暇制度が普及し、男性の育児休業等の取得が一般的となり、ワークシェア推奨企業が県内各地に存在。男女問わず、子育てと仕事の両立が可能になる
- 「リビングウィル・エンディングノート」の考えが普及し、自らの終末期を自ら計画・選択できる社会が確立。自ら終末期を具体的に考えることで、家族の負担軽減や、医療費の抑制につながることを期待できる

【基本目標6 まなびの^{くに}邦・育みとくしま】

- 県内すべての幼稚園・小学校で、「おもてなしの心」を学び実践する「みーんなで、おもてなし！会」を開催し、地域全体でサポートすることで、幼稚園・小学校の児童・生徒は、子どもらしい、おもてなしの心を育てている
- 中学生・高校（・小学校）の生徒を対象に、国際的に活躍する人材育成のため空き店舗等を利用して様々な国籍の人々が交流できる場として「東新町 西新町・徳島の交流街」を設け、イベントを開催し、盛り上げることで、多くの子どもたちが国際的に活躍している
- 特別支援学校や幼小中高校に通う児童・生徒がお互いのことを理解し、個性や能力を認めた上で、徳島の若者では「この人！」、「この取組！」と徳島の光を互いに見出すことができる教育（交流）を実施することで、若者たちが個性を光らせ協働し、自ら発信できている

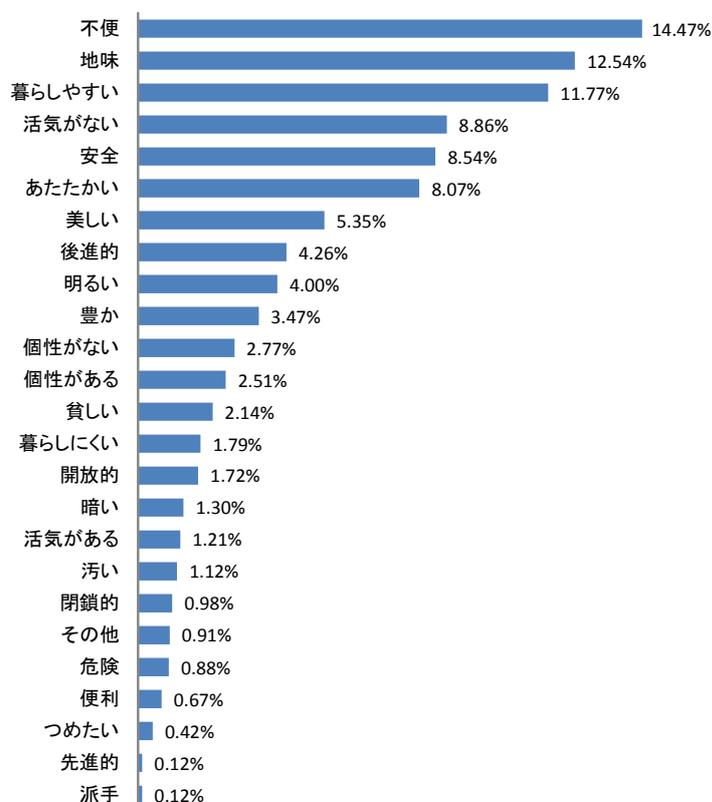
【基本目標7 宝の島・創造とくしま】

- 「誰もが幸福とくしまづくり（多様性を容認できる徳島）」実現のためには、多様な文化や価値観を認めあう必要。互いを認め合うためには、勉強（座学）だけでなく、実体験や何かを一緒に創りあげる体験が必要
- 「協働立県とくしまづくり（自立循環型の経済）」実現のためには、官民がうまく協働する必要。NPOの主体性を信頼し、任せる中で、官の力が必要な部分においては最大限に協力し、官も民間のビジネスモデルをより柔軟に取り入れていく
- 「活力みなぎるとくしまづくり（世界のとくしま・自立循環型の経済）」実現のためには、二拠点居住、サテライトワークの推進といった、移住のひとつ手前の循環する仕組みが必要

高校生・大学生アンケート調査結果

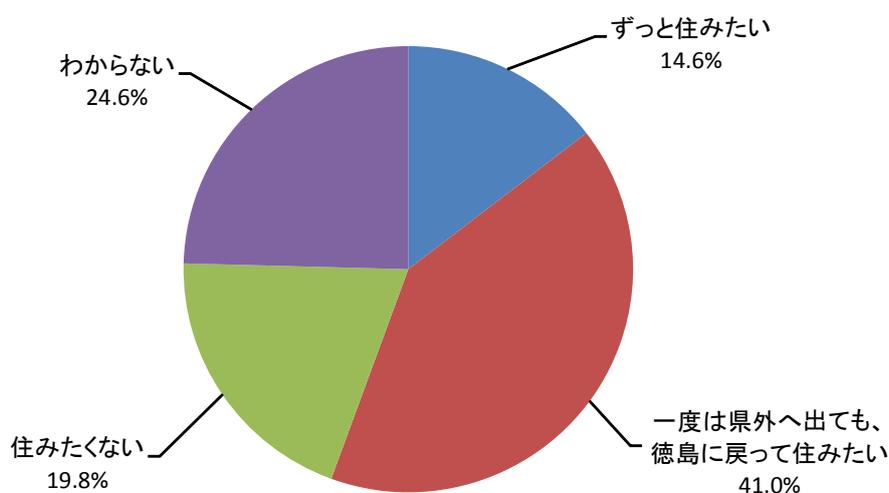
※「徳島県に関する県内高校生アンケート調査」結果概要（県立高校1,436人）

【徳島県のイメージについて】



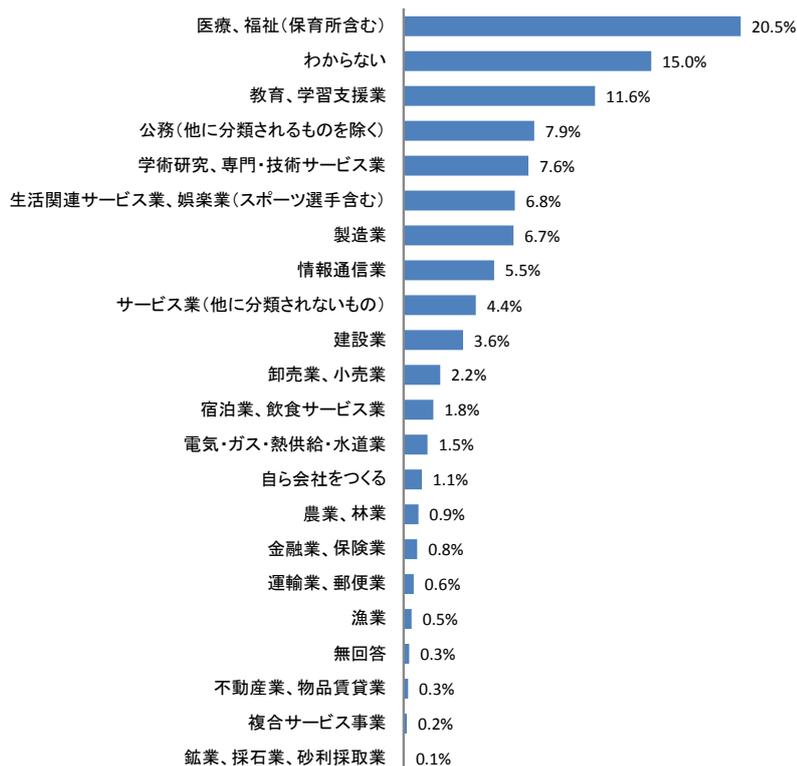
➤ 1位「不便」(14.5%)、2位「地味」(12.5%)、3位「暮らしやすい」(11.8%)、以上の三項目が二桁超となっており、全体の約4割(38.8%)を占めています。

【徳島県への定住志向について】



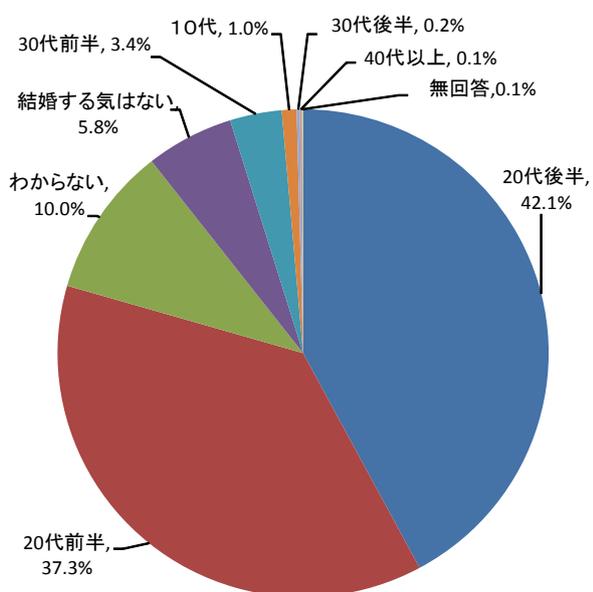
➤ 「ずっと住みたい」(14.6%)と、「一度は県外へ出ても、徳島に戻って住みたい」(41.0%)を合わせると過半数(55.6%)を超えており、地元での定住意向もうかがえます。

【将来希望する仕事について】

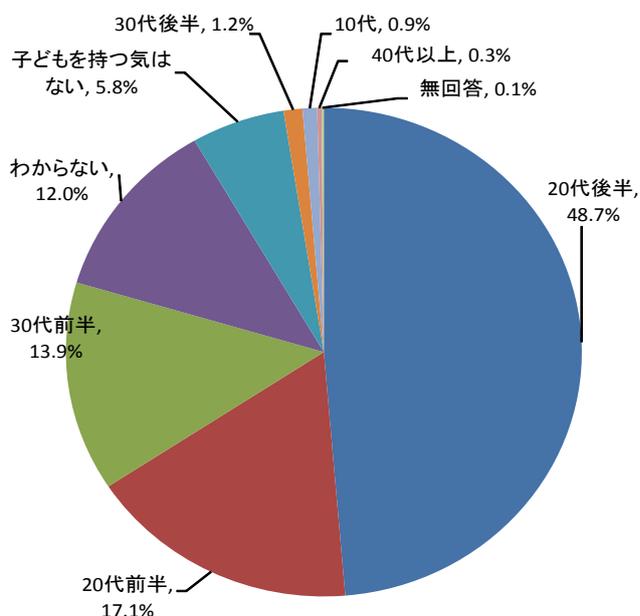


➤ 1位「医療、福祉（保育所含む）」（20.5%）、2位「わからない」（15.0%）、3位「教育、学習支援業」（11.6%）、4位「公務（他に分類されるものを除く）」（7.9%）となっており、就職の希望からも地元志向がうかがえます。

【結婚したい時期について】

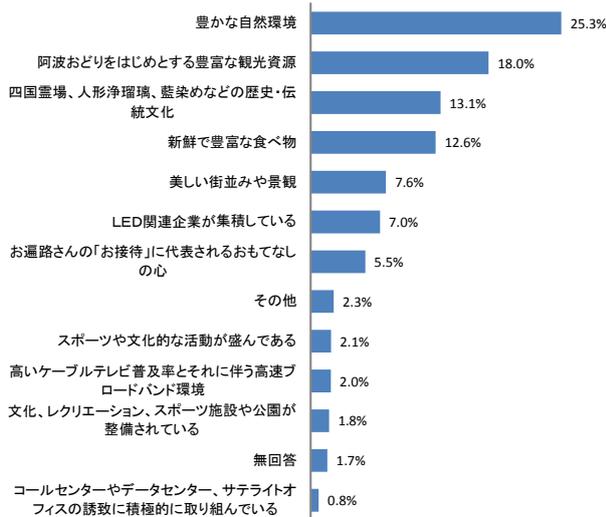


【子どもを持ちたい時期について】

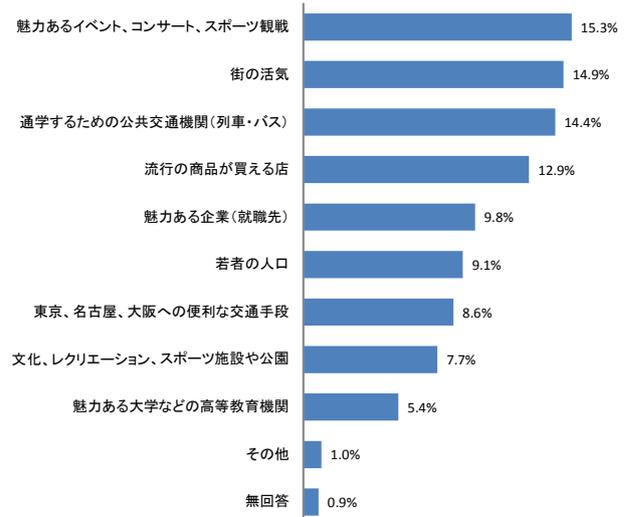


➤ 「結婚したい時期」、「子どもを持ちたい時期」ともに、1位「20代後半」、2位「20代前半」であり、20代で見ると、「結婚したい時期」は約8割（79.4%）、「子どもを持ちたい時期」も7割弱（65.8%）となっています。

【徳島県の魅力について】



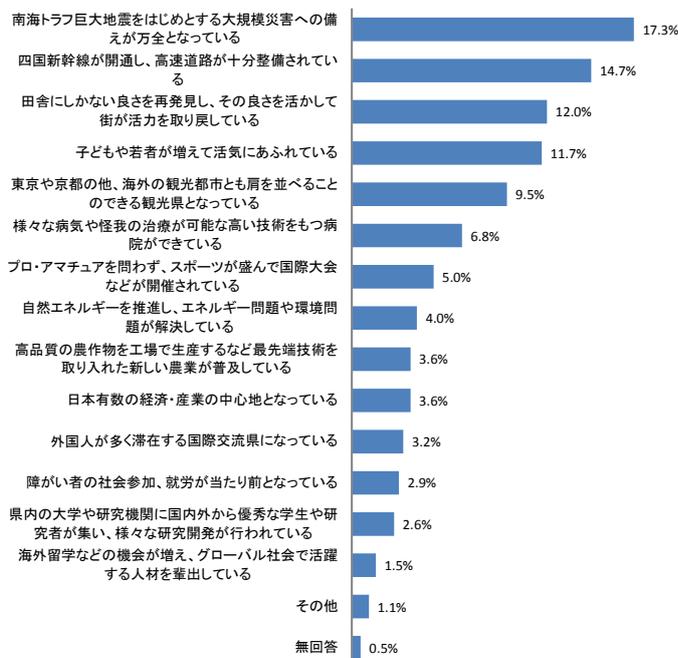
【徳島県に足りないものについて】



➤ 「徳島県の魅力」については、1位「豊かな自然環境」(25.3%)、2位「阿波おどりをはじめとする豊富な観光資源」(18.0%)、3位「四国霊場、人形浄瑠璃、藍染めなどの歴史・伝統文化」(13.1%)、4位「新鮮で豊富な食べ物」(12.6%)が二桁超となっており、全体の約7割(69.0%)を占めています。

一方、「徳島県に足りないもの」については、1位「魅力あるイベント、コンサート、スポーツ観戦」(15.3%)、2位「街の活気」(14.9%)、3位「通学するための公共交通機関(列車・バス)」(14.4%)、4位「流行の商品が買える店」(12.9%)が二桁超で、全体の6割弱(57.5%)を占めています。

【2050年頃に希望する徳島像について】



➤ 1位「南海トラフ巨大地震をはじめとする大規模災害への備えが万全となっている」(17.3%)、2位「四国新幹線が開通し、高速道路が十分整備されている」(14.7%)、3位「田舎にしかない良さを再発見し、その良さを活かして街が活力を取り戻している」(12.0%)、4位「子どもや若者が増えて活気にあふれている」(11.7%)が二桁超で、全体の過半数(55.7%)を占めています。

※ 「徳島県に関する県内大学生・高等専門学校生アンケート調査」の結果(県内1,618人)からは、各設問について、高校生アンケート調査結果とほぼ同様の傾向が見受けられた。

用語解説

○作成中